

# TCR活動の導入

## コンサルティング・プログラム提案書

# I . TCR活動とは

企業を取り巻く環境の急激な変化に対応して、実務を通しながら、全社的コスト低減、全社的仕事の仕組みの見直しを図る。

創造力を発揮出来る人材づくりと、確固たる経営基盤を構築するための創造的革新活動である。

Total Cost Reduction: 全社的コストの低減

Total Creative Revolution: 全社的新しい仕組みづくり

Total Consumer Response: 全社的消費者対応

## Ⅱ. 目的

- ① TCR活動を経営の中に取り込むことにより、組織の活性化と創造力を発揮する人材づくりを目指す。
  - ② TCR事業運営そのものから社員1人1人の仕事に至るまで創造的業務革新を推進し、一段と生き甲斐のある仕事づくりと経営基盤の強化を図る。
  - ③ コスト低減、仕事の仕組みの見直しから生まれた経営資源を再投資し、次なる事業戦略を展開する。
-

## Ⅲ. 特長

- ① 経営幹部と、全社的TCR活動としての意思統一をしっかりと行います。
  - ② 実践的ミーティングを通してコスト低減、業務改革スキルを体得、蓄積することが可能です。
  - ③ 全社的な横断プロジェクトとして対応いたしますので、全部門が歩調を合わせながらスパイラルに業務革新を進めることができます。
  - ④ 社員の叡智を結集することにより、コスト低減から業務の革新、そして事業戦略提案へと創造的経営革新の展開の道が開けます。
  - ⑤ 「考え方のための共創」ではなく、あくまでも実務を通じた経営革新の道づくりとしてサポートすることを目的とするものです。
-

## IV. ステップ

### ① TCR推進プロジェクト・レクチャー

- (1) 企業を取り巻く環境の変化
- (2) TCR活動の趣旨
- (3) 社員が変わる、トップが変わる、会社が変わる
- (4) コスト 1/2、時間 1/2 から何を生むか
- (5) 経営資源の再投資へ
- (6) 事例
- (7) TCR活動を進める方向と手順  
→プロジェクトチーム編成、テーマ、日程

・レクチャー終了後、経営幹部とのミーティング

<次回までの課題>

TCR推進室の設置 (幹部と意志疎通、社内でのコーディネートの上手な人が適任)

---

## ② テーマの設定——コスト 1/2、時間 1/2 を傘にしたテーマ設定

〈例〉 商品開発時間 1/2 で上市  
商品コスト 1/2 への低減  
マーケティングコストの効率化目標と仕組みの改善

- (1) 全社的（部門的）課題、テーマの抽出
  - (2) テーマの優先順位の検討（5～6つくらいに絞る）
  - (3) 事業的観点からのテーマと到達すべき目標のベクトル合わせ
  - (4) 推進体制
    - TCR推進室の設置と担当者任命及び役割
  - (5) プロジェクトリーダーとメンバーの決定
  - (6) TCR活動報告と仕組みづくり
    - リーダー会議 1回／月
    - トップへの報告会 1回／四半期
-

### ③ テーマ別現状把握

#### (1) 各プロジェクトチームより提出されたテーマの内容について分析

- テーマの狙い
- 現状の問題点（定量的実態把握）
- 課題の整理（何が変わるか、何を変えるか）
- 改善項目の決定（キーワードの設定）
- スケジュールの設定（出来るだけ月単位に）

### ④ 報告のしくみづくりと経営幹部への発表会（3ヶ月毎）

- (1) 中間報告状況
- (2) TCR担当役員
- (3) チェックリストに基づく討議
  - 軌道修正、強化ポイントなど

## ⑤ TCR報告会

- ・各テーマ毎の発表
- ・TCR推進室司会
- ・1テーマ:報告20分、質疑10分
- ・30分 × 6 = 180分

- (1) リーダー報告
- (2) 経営幹部指導とコメント
- (3) 社長、TCR担当役員による総括と方向付け
- (4) まとめ(今求められる人材と創造的革新)

## ⑥ 報告会に基づく経営(事業)戦略の検討

- (1) コスト効果分析
  - (2) 仕事の仕組み見直し
  - (3) 新しい方向性の検討
  - (4) 新しい方法の導入検討
  - (5) 新しい視点からの戦略立案
  - (6) 新たなるTCRテーマと継続テーマの検討
-



## V. 運営方法

- ① 貴社TCR推進室と日本オリエンテーションとの共創ミーティングによって行う。(場合により経営幹部を交え、フォローをいただく)
  - ② 原則として月2回、合計6の共創ミーティングを行う。
  - ③ 1回のミーティングは13時～17時の4時間とする。
  - ④ 共創プロジェクト日以外に課題推進のための社内ミーティングを貴社TCR推進室と行う。
-

## VI. 期待される効果

- ① 創造力を発揮する人材の育成
- ② 新しい経営戦略を生み出すきっかけ
- ③ コストダウン効果を再投資、再活性
- ④ 仕事のしくみを革新していくことにより
  - (1) 効率的能率的システムの実現
  - (2) 無駄な業務の排除
  - (3) 全社的コストダウンの徹底
  - (4) 人、物、金、時間、情報の有効的活用
  - (5) 社員の生き甲斐を創造
  - (6) 人事労務の新制度導入のきっかけ
  - (7) 商品開発のスピード化
  - (8) マーケティングコストの再投下
  - (9) 財務経理の管理業務効率化
  - (10) 生産体制の合理化効率化
  - (11) 戦略的事業開発のきっかけ
  - (12) 物流の合理化、効率化

他多数